

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(藤沢小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
藤沢小	下回った	下回った	下回った
埼玉県	68	58	58
全国	66.8	58	57.1

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質 問 事 項	藤 沢	埼 玉 県	全 国
生活習慣	朝食を毎日食っている	94.1	94.3	93.7
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	95.6	83.9	81.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	94.1	91.9	91.0
学習習慣	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	94.1	84.8	81.7
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	17.6	25.6	24.9
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	10.3	11.5	11.8
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上、読書をする	19.1	15.3	15.2
教科への関心	国語の勉強は好きだ	67.7	59.3	58.3
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	97.1	92.1	90.4
	算数・数学の勉強は好きだ	66.2	58.7	57.9
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	98.6	93.0	91.6
	理科の勉強は好きだ	91.2	81.4	80.1
	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	88.2	81.7	79.9
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	86.7	84.7	80.3
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	79.4	75.7	68.6
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	88.2	82.8	77.8
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた	91.9	87.9	84.9
その他	自分には、よいところがあると思う	92.7	88.5	86.9
	将来の夢や目標をもっている	89.7	84.7	83.1
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100	96.8	96.4

【質問紙分析】

- ・ 全体的に県や国よりも高い数値になっている。
- ・ 子供達の自己肯定感が高く、自分のやっていることや普段の生活の様子に自信をもっている子が多い。
- ・ 勉強の必要性は感じているが、学ぶことを苦手としている子もいる。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

- 文章の大まかな内容を捉えて、問題を解くことができる。
- 1年生から5年生までに学んだ漢字の習得がおおよそできている。
- 与えられた条件をすべて満たして文章を書くことに課題が見られる。
- 無解答は少ないが、問題後半になるにつれて正答率が下がっているため、問題に粘り強く取り組むことに課題が見られる。

【算数】

- $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ などの異なる分母の分数の加法の計算技能を習得できている。
- 図形の角の大きさがわかり、図形によってその大きさが違うことについて理解している。
- 問題を解決するために必要な数値を問題文の中から見つけ、答えを求めるためにはどうしたらよいかを、式や言葉で説明することに課題が見られる。

【理科】

- 花のつくりについての知識が身に付いている。
- 実験の条件の整理をして、正しい数値を求めることができる。
- 実験結果から次の課題を見出すなどの、課題発見力に課題が見られる。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・ 短い文章を書くことで、書く力の向上を図る。自分の考えを短い文章でまとめることができるように、国語科に限らず授業で振り返りを書く。その際、分かったことや気付いたことを書くようにする。

【算数】

- ・ 考えを説明する場面で、図や数直線を言葉と式にして説明できるようにする。そのために、考える時間を十分確保できる授業を行う。
- ・ 友達と一緒に考える学習をしながら、課題を解決したり、説明し合ったりする場面を設ける。また、「これならできそうだ」という子供達の思いをかき立てる問題を設定し、やり遂げることで充実感や達成感を味わえるようにする。

【理科】

- ・ 「なぜ」「どうして」という疑問を子供自身が多く持てるような授業を行っていく。